

『グローバル天理』第4号掲載論文要旨

井上 昭夫 「巻頭言 「大学の国際化」の落とし穴」

「国際化」という言葉は曖昧な日本語だ。その言葉の持つ多義性に惑わされてはならない。国際とはもともと政治的、人為的システムである国家と国家の関係性である。国際的な人材養成から世界的人材の養成へというグローバルな新しい概念に変わるだろう。

太田 登・中井 精一 「天理教原典とやまとことば（4） 原典とその発音〔2〕－連母音の特徴」

奈良県北部地域における連母音の特徴を取り上げる。そして、天理教の原典の一つである「おふでさき」の中の表記との関連性をさぐる。

笹田 勝之 「天理教における悟りの構造について 他宗教との比較を通して（4） 序章(続)『おふでさき』における用語「さとり」・」

前回に続き、「おふでさき」に現れる「さとり」の例をあげ、その意味をさぐる。ここでは「真実を知る」、「人間の勝手な思案・理解」、「「おふでさき」に基づいて思案することによって分かること」という意味があげられる。

堀内 みどり 「天理異文化伝道の諸相（4） 天理教のコンゴ伝道〔2〕－コンゴ共和国〔2〕」

1880年にフランスの探検家ド・ブラザを長とするフランス代表団は、マココ王国の王と条約を結び、フランスの租界地を獲得する。その条約はかなり穏健なものであったが、その後フランス人の入植が始まると、原住民との対立が起こる。コンゴは1960年に独立を果たすが、その後も部族対立が続いている。

金子 昭 「天理経営学－その歴史・哲学・展望－（4） 歴史編 天理教者の経営観〔3〕」

天理教者は、倒産のような事業家にとっての「節」をどう受けとめるか。「節」に直面しても心倒さず、それもまた天の与えであることを自覚し、神の思いは

どこにあるのか、常に自己反省していく姿勢が天理経営学の根本的な方向定 位である。今回は、これを最も自覚的に行った、ダスキン2代社長の駒井茂春を取り上げる。

佐藤 浩司 「天理教東南アジア伝道誌（2） 伝道の理念」

親神の啓示によって、人類創造の目的、存在と当為、そして具体的救済の方法が明らかにされた。この明らかにされた真実を伝え、創造の目的に適うように救済を実現することが、天理教の伝道である。

佐藤 孝則 「エコロジーの思想と実践（4） インダス文明と資源循環システム」

過去の環境破壊による難民誕生と文明崩壊の因果関係を再確認することは、「環境の世紀」を迎える我々にとって、示唆に富む有益な指針を得ることになるだろう。今回は最近新たな遺跡の発掘が発表されたインダス文明を取り上げる。

小林 正佳 「芸術・癒し・宗教（4） 感性の共有」

民俗舞踊では「共通感覚」がその存在理由の根幹に組み込まれている気がする。舞踏は共通感覚を生み出す文化装置の一つとして捉えることができる。しかし、今日我々のからだ自体が、異質な身体感覚に共鳴できにくくなってしまっているのではないか。異質な身体感覚に共鳴しようとする姿勢が、自分自身の違った身体の在り方に気づかせてくれるかもしれない。

小滝 透 「天理比較神秘論への試み（4） 砂漠と森林の狭間で」

イスラームは砂漠的人間性を抑制するものだ。砂漠的人間（＝バダウィー）とは移動と家畜と血縁の中で世界を形成した者だ。それに対して、ムハンマドはバダウィーの存在根拠である血縁幻想を真っ向から否定した。そして、バダウィーを精神的不安から救えるのはアッラーであると説いたのだ。優れた宗教者には、常に破壊と想像の双面神が憑依している。伝統の尊重と徹底した忘恩が同時に表に現れる。双面神の片方だけでは新たな価値は創れない。

金子 珠理 「ジェンダー・女性学情報（4） 人口にまつわる神話（続）」

今号では、第2次大戦後と江戸後期の日本を事例に取り、(1)戦後の第一の少子化の本当の主演を探り、(2)18世紀末頃からの間引き・墮胎批判の言説の増殖を考察しながら、中山みきの教えの歴史的な位置付けも試みる。

塩沢 千秋「脳死・臓器移植－カナダ通信（４） Xenotransplantation」

インターネットでオンライン臓器オークションが行われるまでには、臓器提供者が不足しているからだ。提供臓器不足を解決するために、人造臓器、組織再生臓器のほかにも、Xenotransplantation 即ち異種間臓器移植、つまり人間と動物との間で臓器を交換する研究が行われている。異種間臓器移植がどのような段階にあるかを紹介する。

深川 治道「エコロジカル インタビュー（４） 環境マネジメントシステムと大学 [4]」

教育機関としては日本で2番目に ISO14001 の審査登録をされた建設分野の専門学校「九州理工学院」取材した。学院では独自に内部監査員研修が行われ、希望する学生は一般参加者と共に研修を受けることができる。そして、研修を受けた学生は、実際に学院の EMS の内部監査に参加できる。

小椋 博 「宗教・スポーツ・賭け（４） 「ツキ」と実カースポーツにおける偶然と必然(続)」

賭けがスポーツの発展を妨げるという考えに対して、スポーツに賭けを持ち込むことによって、スポーツの近代化が達成されたという見方も提出されている。スポーツ・遊び・賭け・占いに関する記述を紹介する。

上杉 武夫「都市の再生に向けて－アメリカ通信（４） アースデイとリサイクル」

4月22日はアースデイ（地球の日）である。また、アメリカでは1997年にアメリカリサイクルデイ（ARD）が設定されている。今回はアースデイの意義と、アメリカにおけるリサイクルの現状を紹介する。